

タウンミーティング 議事要約

テーマ：市川市のごみ処理について

日時：平成 30 年 8 月 26 日（日）午前 10 時～午前 11 時 30 分

場所：行徳文化ホール I&I

参加者：約 40 人

<1>プラスチックごみ、ごみの指定袋、公園のごみ箱について

参加者：

①普段、一番目にするプラスチックごみはレジ袋だと思うが、買い物をするとレジ袋がたくさん集まる。市原市では、市が公認しごみ出しのできるレジ袋がある。もともとレジ袋をもらわないというのはあるが、もらったものをうまく活用するという意味で市川市でも考えられないか。

②公園のごみ箱は 1 種類しか入れられないので分別しようがない。ごみ箱があるのであれば分別できるような形式にできないか。

市長：

①海外の先進的な自治体では、レジ袋を燃やすごみで出さない、洗って再利用しましょうと書かれており、レジ袋をなくすための取り組みをしないといけない状況になっている。環境に先進的な企業は、買い物をしたときに袋はないけどよいかというのがたくさんあり、レジ袋に課金している企業もある。課題はごみの出し方だと思う。道路の広さなど日本と海外とでは置かれている環境が違うかもしれないが、出し方を工夫する余地はあるかもしれない。

②家庭用のごみを公園に持って来られても困るので、どのように運用するかは考える必要があるが、宿題にしたい。

<2>最終処分場がないことについて

参加者：市川市単独で東北の県などに最終処分をお願いしているようだが、事情の似ている自治体が複数で交渉する方がよいのではないか。

市長：市川市では、都市の構造上、最終処分場がないが、地方は最終処分の受託を収益源にできているとも考えられる。基本的には各自治体で対応する問題とは考えるが、助け合いも必要だと思う。

<3>ビン・カン、燃やさないごみの収集回数について

参加者：燃やさないごみとビン・カンでは出す回数が全然違うと思うが、両方とも収集回数を週 1 回に戻すのか。

市長：案としては戻すことで検討しているが、これで決めたわけではないので、議論し

ていきたい。

<4>収集体制の見直し案について

参加者：

- ①平成 29 年度に収集体制を変えた際に、どれくらいのコスト削減になったのか。今回、考えている案にすることでコストはどれくらい増えるのか。
- ②生ごみ・紙おむつの収集をどれくらいの人が利用する想定で考えているのか。
- ③この案を行うとごみは増えるのではないか。

市長：

- ①、②コストについては検討している部分もあるので、答えられるようにしたい。収集体制を追加するとコストは増えると思うが、ごみ出しに困っている人をフォローするという意味では、施策を行う意義はあるものとする。また、この施策のために新たな指定袋を作ったりすることは考えていないので、そこに新たな無駄はないものとする。
- ③この施策を行うことでごみが増えることのないよう、ごみ削減の努力も同時に行い、環境にやさしい街を目指していきたい。

<5>収集体制の見直し案、市民への還元について

参加者：

- ①収集回数変更で 1 回あたりのごみ量が増えた。収集車が入って来られないところなので、燃やすごみの収集を 3 回に戻してほしい。
- ②：江戸川清掃工場建設の説明を受けた際に、できあがった工場の電力消費や地域への還元方法を具体的に聞いた。市川市でも示してほしい。

市長：

- ①人によっては、市にごみ出ししか世話になっていないから、収集回数を減らすのは何事だと言う人もいます。ごみは減らさないといけないが、日々の生活を妨げないようにし、リサイクルも行うという両立の難しい宿題ではあるかもしれないが、よい方法があると思うので取り組んでいきたい。
- ②市川市では、焼却した際に発生した電力を売って収入にしている。どのように目に見えるかたちで還元できるかは考えているので、示していきたい。

<6>収集体制の見直し案について

参加者：収集体制見直し案には基本的に賛成。ごみ出しに困っている人は、ごみだけではなく生活全体で支援する必要があるのではないかと考える。燃やすごみの削減は、性善説的に言えば、最終処分場がないなど、市川市の事情を話せば市民は協力してくれると思う。

市長：困っていることへのサポートはするが、ごみを減らすことが大事であって、そこ

にコストの問題がついてくるものと考える。収集体制案はこれが全てではなく、環境を整えればもっと減らしてもよいという議論になるかもしれないし、さらに議論して、ごみを減らしながら、これからもあるべき姿を考えて続けていきたい。

<7>収集体制の見直し案について

参加者：夏場の生ごみ・おむつの収集を7～9月としているが、梅雨時期の6月も虫が沸くので収集できないか。

市長：夏場に週1回追加すること自体がよいのかや、実施にかかるコスト面を含めて検討する必要がある。変更の前後で混乱が生じないようにしたい。

<8>収集回数体制の見直し案について

参加者：燃やすごみの収集を週3回に戻すことがよいと思い投票したが、シフトで夜勤をしていたりするとごみ出しの機会が週1回になる場合もある。ごみの収集回数とごみの処理は別の問題と思うが、ごみの減量と公約の週3回をすり替えたのではないかとも思える。東京都の燃やすごみが週2回だからよいという問題ではない。

市長：問題をすり替えたとは考えていない。究極的には収集回数の問題ではなく、市川市として環境問題をどう考えるか、どうリサイクルしていくかの問題と考える。環境にやさしい街を作りながらも、生活に不便をさせないように、どうサポートしていくかが大事。議会や内部で揉んだ結果、現状ではこのような案になったが、生活に不便を感じないようにしながらも、ごみを減らして環境に優しい街を作るのが課題と考える。

<9>市民への周知について

参加者：ごみの意識を強く持ってもらうため、ごみゼロの日（毎年5月30日）というのがあるが、来年のごみゼロの日に向けてこれをやりたいという予定はあるのか。

市長：現状は特に考えていないが、来年夏に収集体制の変更ができるとすれば、告知のよいタイミングなので何かやろうと思う。

<10>ごみの出し方、正しく出されなかったごみの扱いについて

参加者：

①10年ほど前に川崎市に住んでいたが、川崎市に指定袋はなく、当時のごみの種類ごとに共用のごみ箱に入れ収集されていた。指定袋を市民が買う負担を考えたら、ごみ箱制にすることはできないか。

②散歩していると正しく出されていないレジ袋が取り残されている。1、2個の場合、頑なな回収拒否はどうかと思う。

市長：

①市川市では、ごみ袋代のみをいただいております、他市のようにごみ処理手数料は取っていない。アメリカのように大きなごみ箱を買ってもらって専用の収集車で収集ということもあるが、レジ袋を減らさないといけないという課題がまずある。他市ではごみ処理手数料を取っている自治体もあるが、ごみを減らそうと思ったときに一番よいのはごみ処理手数料の有料化だと思う。ごみ出しにお金がかかるとわかれば、ごみを減らそうとするはずなので合理的だとは思う。あるいは、市川市以上の分別を求めているところもある。

②正しく出されていないごみについては、マナー向上を訴えていくことになる。

<11>今後の清掃行政の施策について

参加者：焼却量の削減が市の重点とのことだが、ガス化・堆肥化など資源回収を中心にしてはどうか。燃やすごみはごみ全体の 80%、そのうちの 40%が生ごみ、現在の燃やすごみを 2 分割して、生ごみとその他の燃やすごみに分けて収集してはどうか。

市長：研究していく。

参加者：清掃部は業務のほとんどを委託しているにもかかわらず、130 人を超す人員がいる。どうしてこんなに人がいるのか。経費も人件費を含まず 60 億円かかっている。

市長：効率のよい人員体制を研究していきたい。

<12>ごみ出しに困っている人への配慮、地球環境への影響について

参加者：

①政策を考えるにあたって、支援を必要とする人は常に一定数いることを前提に考えてほしい。

②リサイクルを業者任せにして実際は産業廃棄物にしている業者もある、燃やすのもリサイクルも、発生するエネルギーは一緒、燃やすことによる CO₂ への影響はわずかしかないと聞いたことがある。

市長：

①皆さんが生活しやすい施策を打っていかねばならないと感じた。

②適正に出されていないごみについては、監視をしていかないと思っている。発生するエネルギーや CO₂ についてはそのような議論もあると承知している。何に沿って市として判断し、取り入れてよいかは直ちに言えないが、ごみをなるべく出さず、リサイクルするという考えは正しいと思っている。

<13>正しく出されないごみについて

参加者：収集日以外にごみが出されていたり、ごみ置き場のルールが守られていない。

転入者などへの告知も紙1枚程度しかないと思うが、どの程度指導しているのか。

市長：罰則とまでは行かないが、入退去時の指導方法は考え直さなければいけないのではないかと考える。